

教育現場における危機管理システムの構築・徹底について

最近、市内でも不審者情報が多数寄せられています。各学校でも家庭に「不審者による被害の防止について」など、文書を発行し、注意を呼びかけているところです。

しかし、実際の対応では、不審者情報があるさなかに、部活終了後暗くなってから1人で帰宅した小学生児童もいます。

教育委員会からの漠然とした注意喚起では、学校毎や教師毎の対応に差が生じ、危険な状態を招くことも考えられます。

全国的にも少年が被害者となる犯罪が多発しており、教育現場における危機管理経営が強く求められるところです。

教育現場において、危険の状態・程度に応じた有効な危機管理が、それも、システム化された危機管理が求められます。

今回の例

現在の危機管理システムは、危険のケース分類、危険状況のレベル分類がなされた上で、ケース・レベル毎の対応が明確に定められ、確実に実行されるシステムになっているかどうかが問題です。

あくまでも今回のケースを責めるつもりではなくて、なぜ、そのようなことが起きるかという根本的要因を究明して改善することが目的です。再発防止ですね。

(まあ、人はそんなに悪いことはしないだろう・・・まさかこの地域で・・・という「性善説」の上に成り立った処置で、学校現場だけではなく、社会一般に言えることです。)

二人以上で帰る・・・同じ家に帰るわけではない。途中から1人になった児童には「二人以上で帰る」ことを決めた危険要素を回避できないことになる。実際にそのような場面で被害にあっています。

下校時間(現在は午後4時)を守る

・・・実際には文書発行当日に部活が行われ、帰宅時間が遅くなっている。それも1人で暗い道を帰ってきている児童もいた。文書中には、「行事や部活などで遅くなることもあります。大きな変更は事前にお知らせします。」となっているが、ここに

は、危険回避の思想が欠如している。迎えに来られる親ばかりではない。= その時の危険レベルに応じた対応が必要。

実際に付近に不審者が出没している状況下で、「2人以上で帰る」「下校時間を守る」という処置が行われている一方で、部活を行い、暗い夜道を1人帰宅する児童が出ている。

このケースでは、不審者情報があった時点で「部活中止、教師引率の集団下校」で緊急の危険を回避し、その後、様々な対策を検討するべきです。

このケースは起きて当たり前の間違えで、このケースがなぜ起こるかが問題。根本的に考え直さなければいけない問題が潜在的に存在すると思うが、なぜこのような中途半端な対応が起こるか、その問題を認識していますか。

現在の問題点

問題点

- ・ 想定される危険をシステムの的に捉えて対応できるよう、前もって徹底的に危険を想定・検証・計画する作業が行われていない。その結果として、問題が発生した時々の対応になっていて、個人差、学校差を生じ、手落ちが発生しやすくなっている。

市の教育委員会が標準的な危機管理マニュアルを策定する。これは、危険のケース・レベル分類とそれに対する処置が含まれなければならない。学校や教員の個性によって対策が異なり、その結果として手落ちを生じないための最低限守らなければならない処置である。

例えば、下校については

- 1) 集団下校、教員の引率
- 2) 下校時間・・・部活の禁止を含む

昼間であれば、

- 1) 授業時の教室等外部と通ずる出入り口窓等の施錠状態
- 2) 関係者以外立入禁止処置の詳細(例えば、生徒玄関灯を封鎖し、教務室や事務室の前を通らなければ学校には入れない処置)

各学校で、その学校の構造や校区の特徴に応じた行動指針を

策定する。これには、地形や集落の状況による対策の違いが含まれる。

・手順が定められていない

5W1Hと言われる手順が具体的に定められていない。求められる結果（多分この場合は、「不審者に対する安全対策を講ずる」という結果）だけでは、手順に団体差・個人差が生じ、その結果必要な効果を得ることが出来ないばかりか、かえって危険な状態を招いてしまうことにもなりかねない。

危機管理体制の各作業・行為の内容、担当者、「いつまで」という対応時間の決まり事まで含めて、基本対応策が決められている必要があります。そしてそれは、実践に応じて改善されていかなければなりません。

危険の状態を検証し、予め定められた処置を最低基準として、状況に応じた柔軟な対応が出来るよう危機管理経営システムが構築されなければならないでしょう。

教育現場において、危険が認知される状況下で生徒・児童の安全以上に優先されなければならない業務は無いはずですから、教師の対応に個人差があってはならないのです。

通学路の安全点検

各学校で通学路の安全点検を行っていると思いますが、暗くなってからの通学路の点検を徹底しているかどうか。

暗くなってからの通学路の状況を点検することは重要です。糸魚川小学校の安全マップには、暗い箇所が明記されていました。

安全点検の結果がどう活かされるか

安全点検の結果が、行動面の改善と施設面の改善に活かされなければなりません。

行政側のシステムとして、

安全点検結果

安全登下校の指導

施設面の改善（担当課との連携）

がシステムの的になされるように、縦割り行政の弱点を超えて実施されなければなりません。

夜道の点検の結果を担当課と詰めて、街灯等の設置を協議し、
少しでも安全な通学路の整備に努めていただきたい